

平成31年 2月22日

君津市議会議長 鈴木 良次 様

きみつ未来 磯貝 清

会 派 視 察 報 告 書

きみつ未来視察報告書を次のとおり提出いたします。

記

- 1 期 日 平成31年2月4日（月）から
平成31年2月5日（火）まで
- 2 視 察 先 （1）兵庫県三木市
（2）岡山県勝央町
- 3 調査事項
（1）市政懇談会について
縁結び課の取り組みについて
（2）元気なまち推進室による地方創生の取り組みについて
- 4 参加議員 磯貝清、平田悦子、松本裕次郎、石上壘

以上

兵庫県 三木市

日 時：平成31年 2月4日（月） 午後1時30分から午後4時30分まで

場 所：三木市役所

調査事項：・市政懇談会について ・縁結び課の取り組みについて

出席者：

議会事務局主任 近藤 俊之 氏、縁結び課 成瀬 拓生 氏

生活協働課長 小田 康輔 氏、生活協働課係長 堂元 誠二 氏

1. 三木市の概要について ※（ ）内は君津市

人口：78,100人（84,600人） 面積：176.51km²（318.83km²）

一般会計：316億円（328億円） 議員数：16名（24名）

三木市は、兵庫県中南部、東経135度の日本標準時子午線上に位置し、神戸市、加古川市、小野市、三田市、加東市及び加古郡稲美町と接している。

市域は、加古川の支流、美嚢川流域の沖積平野、洪積台地および丘陵から成り立ち、面積は、176.51km²である。

2. 調査事項について

①「縁結び事業」について

1. 三木市婚活支援事業のあゆみ

H13～ みきハート・まちおこし実行委員会設立

H20.11.22 みきで愛（出会い）サポートセンター設立

H26.4 縁結び課 新設

H28.3 三木市創生計画 策定

H28.4 縁結び課を拡充

2. 縁結び課の業務内容

出会い、住居探し、定住まで切れ目ない支援を実施し、三木市のイメージアップと若者の定住促進をめざす。

（出会いから定住までをトータルサポート）

1) 縁結び事業

・みきで愛サポートセンターに委託し、独身男女の出会いの場を創出

2) 移住・定住促進事業

- ・若者・子育て世代が取得した新築物件の固定資産税などを助成
- ・若者・子育て世代の転入者向け支援事業（住宅購入費を補助）
- ・市民参画による移住促進PR活動等

3) ふるさと納税

- ・返礼品を通じ、市内中小企業の活性化を図る。
- ・三木金物、ぶどうなどの特産品をPRするとともに、ゴルフ、乗馬などの体験型返礼品を記念品とし、交流人口及び関係人口を増やす。

4) その他

- ・空き家バンク

3. みきで愛（出会い）サポートセンターについて

1) サポーター登録者の推移

2) 相談者新規登録者数

3) お見合い件数と成婚数（婚活パーティー分を含む）

4) 他の自治体が行う婚活事業との大きな違い

①第2の親的存在のサポーターがおる。

②ボランティア活動の中でもNo.1のやりがいがある。

（継続的に繋がっており、平成30年11月22日で設立10年を迎える。）

③単なるマッチングシステムではない。

（多くの自治体が力を入れているが、結局、結婚できる人だけへのフォローになっている。）

5) 成婚による効果額

●市内定住者【129名：98名（49組）＋生まれた子ども31名】

地方交付税額 9,030千円

年間消費額 159,960千円

●市内転入者【37名】

地方交付税額 2,590千円

年間消費額 45,880千円

※一人当たり地方交付税額約7万円、国民一人当たり年間消費額124万円

3. 所 感

三木市の人口は、昭和 45 年頃から急激に増加し、平成 9 年 10 月末に人口 88,232 人でピークを迎えました。その後、若者世代の市外への流出や市全体の出生率の低下などにより人口は継続的に減少していきます。平成 27 年 1 月末の人口は、79,725 人で、ピーク時の平成 9 年よりも 8,500 人減少しています。

三木市の合計特殊出生率は、昭和 60 年までは、全国や兵庫県の出生率と同程度の 1.70%でした。その後、低下し始め、平成 17 年には出生率 1.07%と県内最低水準となりました。平成 27 年には、出生率 1.34%と県内ベスト 3 の増加率で回復していますが、まだまだ、全国や県レベルには達していない状況です。

出生率の減少における要因の一つに女性の未婚率の上昇が考えられます。三木市の若者の未婚率は、平成 2 年～平成 27 年の 25 年間で男女ともに増加しており、その間、特に 30～34 歳の年齢層において、男性は 28.2%から 52.1%と約 2 倍、女性は 10.4%から 39.1%と 4 倍に増え、晩婚化が進んでいます。

また、兵庫県との比較においても、男女とも平成 27 年の 20 歳～39 歳においては兵庫県平均より高くなっており、平成 2 年～平成 27 年の 25 年間で、その差はより広がっています。

縁結び事業の課題として、三木市の P R や町おこしの一環としては、一定の成果があるものの、定住促進をめざした婚活支援の事業としては、成婚カップルの約半数が市外を新居としているのが現状です。その対策として、登録時に三木市の子育て支援や環境の良さなど「住みやすいまち」をアピールし、サポーターにも目的を再認識していただくことで、三木市の子育て支援の内容を住みよい環境を P R してもらっています。

本市も婚活に対して、さまざまな活動を行っていますが、三木市は、縁結び「課」として新設しているので、本気度が伺えました。

本市の各地域にもおせっかい活動のようなサポートをされている方がいるので、そういった方と協力し、未婚率の減少に繋がっていただければと感じました。

②「市政懇談会」について

1. 目的

行政施策に地域住民の意見や提言を反映し、市民の市政への参加を促すとともに、行政と市民は方向性を共有してまちづくりを進める。

2. テーマ

各地区における地域課題及び活性化に寄与する意見・提言

3. 出席者

行政：市長、副市長、教育長、各部長、消防長、議会事務局長。

ただし、部長判断により、意見交換の内容に関係する課長の出席も可とする。

地区：各区長等の地域代表者。

出席者は各区長協議会がとりまとめる。

※市議会議員は、オブザーバーとしてすべての地区の市政懇談会に出席可能。

4. 開催方法

- 1) 各 10 地区で開催し、会場は各 10 地区の公民館とする。
- 2) 意見交換を行う意見・提言については、各区長協議会が取りまとめて市へ提出する。
- 3) 市は意見・提言に対する回答を作成し、市政懇談会の当日に配布する。
- 4) 原則、全ての意見・提言に対し、書面での回答を作成する。

3. 所 感

意見等を各地区で事前に取りまとめて、市へ提出していますが、まず、地区で優先順位をつけ、10 個ぐらいに絞ってテーマを決めてもらっています。各地区で多い課題は、1) 防災対策、2) 学校再編、3) デマンド交通、4) 自治会未加入問題等とのことです。10 地区ありますが、1 地区の自治会の数としては、多い所で、46 自治会。少ない所で、6 自治会と偏りがあり、意見の取りまとめ等で区長の負担が増えたとの話もありました。

もちろん難しい課題もあるので、完了しない課題は、継続案件として残していき、来年度までに進ちょくしているのかチェックを行っており、できない場合は、別の方法を検討し、地区としてできることなども一緒に考えていました。

各地区からの意見をもらい、意見交換会として、部長会（月 2 回）・係長会を開催し、勉強会も実施しています。各地区からの、文章だけではわからない問題や地区の熱の入れ方を感じ取ることができ、市側との温度差についても実感がわくとのことです。

本市は今まで、テーマを決めてから開催していましたが、市民との対話を実施してもらい、各地区の課題を共有化して、新たな君津市を進めていきたいと思いました。

岡山県 勝田郡 勝央町

日 時：平成31年2月5日（火） 午前10時00分から午前11時00分まで

場 所：勝央町役場

調査事項：元気なまち推進室による地方創生の取り組みについて

出席者：末菅満江議長、植月誠彦総務部参事、岡本憲侍総務部主任、
三戸啓郷議会事務局長、㈱勝央体験ファクトリー代表取締役 本行才泰氏

1. 勝央町の概要について ※（ ）内は君津市

人口：11,100人（84,600人） 面積：54.05km²（318.83km²）

一般会計：58億円（328億円） 議員数：12名（24名）

勝央町は、岡山県の北東部に位置し半径5km圏内に町が収まるコンパクトで県内3番目に小さな町です。町の中心地「勝間田」は、かつて出雲往来でにぎわった美作7宿のひとつとして知られています。また勝央町は、金太郎こと坂田金時終焉の地と伝えられ、毎年10月上旬には町最大のイベントとして「金時祭」を開催するなど、「金時ゆかりの町」としても知られています。

人口はここ30年間11,000人台で推移し、0-14歳・15-64歳の年代別人口増加率が県内で2番目に高い、働き世代に支持されている町です。背景には大手企業の進出する工業団地27社が立地する他、生活インフラである上下水道が一部を除いたほぼ全域で整備されています。また、高速道路のインターチェンジも平成28年に開通し、道路網が整備され、岡山市や関西までのアクセスが容易となっています。

2. 調査事項について

「オープンファクトリー」を中心とした地方創生の取り組みについて

- ①勝央町オープンファクトリー設立の経緯、まちとの関りについて
- ②取り組みの成果や苦労した点とこれからの展望
- ③オープンファクトリー開催に対して行政の役割
- ④オープンファクトリーを業務委託した経緯と開催しての効果

勝央町が総合戦略の中で、これから取り組む地方創生を成功に導く為には、まちを愛し、まちの将来を切り拓こうとする「ひと」と、人々の日々の生活を支えるとともに、将来に向けた原動力となる「地域（コミュニティ）」の存在が不可欠であるという認識のも

と、地方創生の1丁目1番地として担い手となる「ひと」と「地域」の育成に着手された。

まちから地域を活性化する実践者を輩出する取り組みとして、2015年11月に「しょうおう志援塾」が開校し、新たな仕事を生み出したい、活気づけるプロジェクトを起こしたい、まちを活性化する仲間と出会って何かを始めたいなど、共通の志をもった人たちが集結し、学び・志を志援しあう塾が始まった。この塾を任された(株)場活堂の泉一成氏が、人と組織を活性化するコミュニケーションを実践し、町民を巻き込んで行くプロジェクトへと発展していく。

塾生の志を形にするべく、志プレゼンテーション「町民の主張」を2016年2月に開催し、多くの町民や役所職員の見守る中、5つのテーマのプレゼンが実施され（町立小学校2校からもゲストとして、それぞれ代表が選出されて出場）、この時（第1回大会）の優勝者が、現在オープンファクトリー開催の中心を担っている、(株)勝央体験ファクトリーを立ち上げた本行才泰氏本人である。

本行さんのまちに対する思いは、工業団地と連携して勝央町キッザニアプロジェクトと題してプレゼンを行なった。大手企業など27社ある工業団地と連携し、職業体験や企業の魅力発信を実施し新たな産業観光資源の発掘を同時に目指すもので、地域の子どもや学生にとってキャリア教育、気づきの一環となること、将来の担い手確保や定住促進に繋がる取り組みになることから、多くの支持を得ることに成功。まちも協力体制を敷き全面的バックアップを確約した。

オープンファクトリーをいざ実施するに当たり、誰が・何時・どのようにしてやるのか具体化しない中、提案者である本行氏自身が(株)勝央体験ファクトリーを創業。「体験」をキーワードに勝央工業団地を中心とした産業観光、まちの北部を中心とした農業体験・動物ふれあい体験・町内農家の収穫体験など、まちの魅力をまとめてコーディネートすることで、勝央町を元気にすることを使命として立ち上がった。

取り組みの第1弾として、2016年6月体験ファクトリー実施に向けまちと連携し工業団地への声掛けを実施。しかし、企業側の反応は工場への一般者立ち入りへの困惑、業務停滞への懸念、実施してもまちの人に受け入れられないのでは、などなど、協力的な意見はいただけなかった。

そこで、町長・副町長の協力を得て、企業訪問を繰り返し、理解を深めていき、第1回オープンファクトリーを開催（1か所に集まる出店形式）。2,500名の方が来場者し、そのうちの7割以上の方から、「子どもと楽しめた」「工業団地の事がよく理解できた」など満

足との回答が得られた。さらに、出展者アンケートでは、「想像以上の来場者で企業の事を知ってもらえた」「住民の方の企業団地への関心が高かった」「企業同士の交流を図ることができた」など、企画への手応えを感じられる回答がほとんどであった。

昨年までの３年間の実績としては、来場者が２,５００人から４,５００人と関心の高いイベントになっていて、体験やワークショップ形式の出店企業も４社から１０社、工場見学も０社から３社と年々規模も拡大し、小学生から高校生の勉強意識・職業意識を高める気づきの創出が図られている。とりわけ高校・大学からの評価は高く、生徒へのキャリア教育の場として大きく期待されているとのこと。

今後は、学生の参加を増やすほかイベント時だけではなく企業の工場見学の受け入れ環境の整備に努め、キャリア教育やインターンシップツアーなどの実施に挑戦していくとのこと。

また、教育観光・視察ルートの開発によるお金を落とす仕組みづくりと、助成金に頼らない運営を目標に掲げていた。

３．所 感

特に、まちの思いを形にしようと取り組む支援塾の泉氏、勝央体験ファクトリーの本行氏お二方共に熱い思いをもって何かを起こし進めていく力をすごく感じ取れました。

また、それを後押しできる町長をはじめ役所の柔軟に敬意を表する次第です。

本市においても、今回学ばせていただいた「まち」を思い行動できる人材の発掘と確保、それを後押しできる役所の仕組みづくりを提言して参ります。

最後に、人との出会いと繋がり大切さということを決回の視察を通して改めて痛感した。

オープンファクトリーが益々盛り上がり、勝央町が更に発展していかれることをご祈念申し上げます。

お忙しい中ご対応いただき、ありがとうございました。